

令和4年4月

卓球関係者の皆様

山口県卓球協会審判委員会
委員長 大内 國 幹

大会におけるルール順守に向けた留意事項について

1. 競技服装及び用具について

- ①団体戦のユニホームは全員同一、またダブルスの選手同士も同一のユニホームで競技することが原則です。ただし、服装が揃わない場合は審判長に申し出て許可受けてください。
- ②ラケット、ユニホーム(上下)は日本卓球協会公認品(JTTA)を使用してください。

2. 試合中のアドバイスについて

高校生までの試合では、ゲームとゲームの間(1分間)、タイムアウト(1分間)中、緊急中断時等を除き、アドバイスは禁止です。

【よく見受けられるアドバイス違反の例】

「サーブ・レシーブを考えて」、「もう一本そこに」などは具体的な指示が含まれ、アドバイスであると判断されます。

3. サービスの違反について

サービスの基準はすべて「相手が不利を被るような不正なサービスを防止するため」のものです。下記がよく見受けられるサービス違反の例です。

- ① サービス時にボールが台より下にさがってしまう
- ② サービス開始前にボール(またはボールをのせた腕)を静止させていない
- ③ 手のひらではなく、指先にボールを置いている
- ④ 投げ上げたボールが16cm以上(ネットの高さ以上)上がっていない
- ⑤ 台上からボールを投げ上げている(エンドラインより前からのサービス)
- ⑥ 斜めにボールを投げ上げている

4. 試合進行の促進について

試合前以下の手順で試合開始となるようにしてください。

- ① すぐに試合ができる服装で、試合のエリアへ(その後はベンチには戻らない)
- ② 卓球台の中央でラケット交換(見せ合う)
- ③ ジャンケンでサーブ、レシーブ及びエンドの決定
- ④ 練習(正規には2分間、通例「スリーミス」もしくは1分間が多い)
- ⑤ 審判の「ラブ・オール」の発声で始める。(練習後、すぐに試合開始)
- ⑥ 団体戦での整列の仕方は卓球台から1m程度まで近づいて並んで、相互挨拶をしてください。

5. 各大会時または大会前にホームページで掲載しています「競技上の注意」を確認してください。